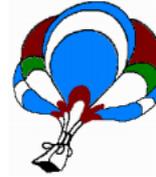


気球船



第 229 号

平成 23 年 6・7 月
文 部 科 学 省
初 等 中 等 教 育 局
国 際 教 育 課
編 集 ・ 発 行
初 版 発 行 昭 和 62 年 12 月

海外子女教育総合HP: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

◇◇ 目 次 ◇◇

■世界の窓

東日本大震災被災者に対する支援活動 チューリッヒ日本人学校長 藤田 英彰

■特集

小学校外国語活動の必修化にあたって 外国語教育推進室

■トピックス

- ・情報検索サイト「かすたねっと」 日本語指導係
- ・補習授業校中学部のための指導資料作成に関して 在外教育施設指導係

■事務連絡

- ・平成 23 年度校長研究協議会及び補習授業校派遣教員研究協議会の日程について 教職員派遣係
- ・人事異動について 庶務・助成係



世界の窓

東日本大震災被災者に対する支援活動

チューリッヒ日本人学校長 藤田 英彰

この度の東日本大震災で犠牲になった多くの方々に哀悼の意を表すると共に、被災された方々及び地域の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。以下、本校児童生徒の支援に向けての取り組みをお話しします。

(1) 本校の概要

チューリッヒ日本人学校は、チューリッヒから列車で 15 分ほどの所にある人口 3 万人あまりのチューリッヒ州第 3 の都市、ウスター市にある創立 24 年目の学校である。本年度、児童数 11 名、生徒数 2 名、教員数 7 名で新学期を迎えた。

(2) 震災直後の本校の様子

被災のあった 3 月 11 日は、チューリッヒ日本人学校では卒業証書授与式前週の金

曜日。東北地方に大地震があり、すごい津波が来たようだと子どもたちを迎えに来た保護者から聞き、インターネットのニュースで確認したのは16時過ぎであった。こちらでは、いち早く動いたのは現地のマスコミであった。その日の17時頃から、テレビ局や新聞社など数社から電話での取材と、インタビューの依頼があった。よく聞いてみると取材の内容が原子力発電所の事故関連だったことと、実際に日本の事がよくわからないこともあり、お断りをした。16日(水)の式には、来賓の方にも事前にお話しし、式前に全員で黙祷をして式に臨んだ。4月の入学式にも、同じように式前に全員で黙祷をした。ご来賓の小松大使の祝辞もほとんどが震災の事であった。私の方からも、被災した人々のために、ただ思うだけでなく行動に移せるようにしたい旨の話をした。

(3) 子どもたち及び学校の取り組み

①私は3月下旬に一時帰国したが、その間に、ウスター市在住の日本人の音楽家で本校の通訳をされている方の発案でチャリティーの話が持ち上がった。子どもたちにも、本校が伝統としている和太鼓での協力の相談があったようである。子どもたちは保護者とも話し、学校にも話し、参加した。4月9日(土)、郵便局前のスペースで和太鼓を3回演奏し教師も準備等で参加した。その夜、ウスター市の議場で地元日本人音楽家によるコンサートが催された。4月末までに多額の募金が集まった。



②チューリッヒ日本人学校補習校では、春休み期間中に、保護者と子どもたち40名前後で2日にわたり、チューリッヒ市内の中心地で街頭募金を行った。2日で多額の募金があったと聞いている。③本校では、このようなスイスの人々の協力に感謝の気持ちを表し、また、このようなときだからこそ日本の良さを再認識しようということで、4月19日に「日本を想う日」を設定した。職員、児童生徒、保護者がそれまでに鶴を折り、それを持ってウスター市役所に市長を訪ね、児童会長、生徒会長からお



礼の言葉と共に折り鶴を贈った。市では、市民の方にその折り鶴を持って帰っていただけるよう、配慮をいただいた。子どもたちは、学校に戻ったあと図書室で改めて震災のことを教師から聞き、プロジェクトで日本の美しい風景などを見て、感想をまとめ発表した。

④7月2日（土）、チューリッヒ市内でのチャリティーコンサートに、補習校保護者より子どもたちの参加依頼があった。土曜日ということで、保護者会が中心となり、子どもたちにも参加希望を取った上で、全員が参加した。これも、昼から3回、野外でそれぞれ15分程度の演奏をした。教員全員、当日の太鼓運び等、ボランティアで参加した。

⑤パリ日本人学校永沢校長より、ユネスコ本部からの絵はがきによる励ましのメッセージキャンペーンへの参加依頼に応え、絵はがきを書いて6月30日（木）仙台に送った。

（4）その他の援助活動

①4月12日（火）、チューリッヒの有名なオーケストラ、トンハレでも高名な指揮者と独奏者を迎えすばらしい被災地支援のコンサートを開いた。また、チューリッヒ市だけを見ても、震災後、スイスに住んでいる日本人の方によるチャリティーコンサートが、教会等を会場として行われている。

②チューリッヒにあるインター校の小学6年生が、被災地の子どもたちに何かがしたいと考え、全生徒の協力を得て「ぬいぐるみ」を集め送ることを考えた。その理由は、「小さい子はぬいぐるみがなくて、夜寝られるのかな？」ということだったそうである。震災直後は、生活物資中心で日本の関係機関ではぬいぐるみなどは受けつけてくれないということで、知り合いの本校保護者から相談があった。バンコク日本人学校で勤務していた当時、プーケットの津波対応を一緒にし、今回の津波では仙台で被災した校長がいたので、連絡したところ「ありがたい」という返事があり、送ることが出来た。輸送に関しては、スイスの航空会社が無償で、十数箱を仙台まで届けくれた。後日、その2人の子どもから、美しい花束と手紙をいただいた。改めて、こちらの子どもたちの行動力とスイスという国の温かさ、豊かさを感じたところである。

被災地に対する支援活動は、世界の各地で様々な取り組みがなされてきていることかと思えます。それらの活動に参加した世界の子どもたちの気持ちが、被災された方々や子どもたちに届くことを祈っています。本校では、これからも折に触れ、被災地の事などを取り上げながら、復興の様子を子どもたちに伝えていきたいと考えています。



小学校外国語活動の必修化にあたって

外国語教育推進室

今年度から、小学校において新学習指導要領が完全実施となり、第5・6学年において外国語活動が必修化されました。在外教育施設においては、これ以前からさまざまな形で外国語学習に取り組まれていることと思いますが、今回は、外国語活動の必修化にあたり、その目標や、実施にあたって心掛けていただきたいことをお伝えしたいと思います。



まず、外国語活動の目標は次の3つの柱から成り立っています。

- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる

外国語活動は、この3つの柱を踏まえた活動を総合的に体験することで、中・高等学校における外国語科につながるコミュニケーション能力の素地の育成を目指すものです。

まず、①では、外国語の歌やチャンツを通じて、外国語特有のリズムやイントネーションを体得することにより、児童が日本語との違いに気付くようにします。また、様々な国や地域の生活習慣、行事などを積極的に取り上げることで、多様な文化を知ることを目指します。また、日本の文化との比較により、我が国の文化についても理解が深まることが期待されます。



②では、児童が使える外国語を駆使し、様々な相手とコミュニケーションを図ることの楽しさを体験させるようにします。同時に、児童に普段使っていない外国語を使用させることで、コミュニケーションの難しさと大切さを実感させることも目指しています。

③では、児童の柔軟な適応力を活かし、歌やチャンツ、ゲームなどを通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てるようにします。なお、外国語活動では、中学校段階の文法等を単に前倒しするのではなく、あくまでも体験的に音声や表現に慣れ親しむことを目指します。

外国語活動は、以上の目標をよく踏まえた上で行われるべきであることは言うまでもありませんが、在外教育施設での実施にあたっては、特に次のような点が重要です。まず一つめは、外国語活動を日本の言語や文化への意識を高めるきっかけにしてほし

いということですが。既に述べたように、外国の言語や文化に触れ、日本語や日本文化について理解を深めることは、外国語活動の目標の一つとして挙げられているものです。在外教育施設では、現地を含めたさまざまな国や地域の言語と文化、そして日本語や日本文化を積極的に取り上げることで、それらの違いに気づかせ、我が国についての意識を高めるような取組が望まれます。

また、これに加えてもう一つ、非常に大切なことがあります。それは、学校全体で外国語活動に取り組むことです。このことは、在外教育施設に限ったことではありませんが、在外教育施設において各地域の実情にあわせた外国語活動を作り上げていくにあたっては、担当の教員だけでなく学校の全教員が外国語活動の趣旨を十分に理解することが必要です。また、外国語活動の充実のためには、管理職の外国語活動についての理解もまた不可欠であることは言うまでもありません。



海外子女のための外国語活動の実施にあたり、子どもたちのコミュニケーション能力育成に向けて各学校一丸となって取り組まれることを期待しています。

(写真提供：バルセロナ日本人学校)



情報検索サイト 「かすたねっと」

帰国・外国人児童生徒教育のための情報検索サイト

文部科学省
初等中等教育局国際教育課

目的

文部科学省では、教員を中心とする教育関係者が帰国・外国人児童生徒に対して、効果的に適応指導、日本語指導を行える環境づくりを支援するため、情報検索サイト「かすたねっと」を公開しています。

このサイトでは、帰国・外国人児童生徒の受入れ実績が豊富な教育委員会等作成の、「多言語の学校文書」や「外国人児童生徒教育のための教材」を、地域の実践事例として検索することができます。

教材検索

文書検索

検索サイトについて

トップページのこのアイコンから検索してください

検索サイトについて

トップページのアドレス <http://www.casta-net.jp>
(検索ソールの利用方法については裏面参照)

運用協力機関

「かすたねっと」は文部科学省初等中等教育局国際教育課が運営主体となり、関西大学総合情報学部(情報検索システムの開発・管理)、国立大学法人豊橋技術科学大学情報メディア基盤センター(サーバーの提供・運用)との連携協力のもとで運用されています。

問い合わせ先

サイト運営に関すること	文部科学省初等中等教育局国際教育課 日本語指導係 TEL 03-5253-4111 (内線 2005) FAX 03-5734-3738 E-mail kokukyo@messt.go.jp
リンク先の内容に関すること	「かすたねっと」に掲載されている著作物の内容、著作権などに関することは、それぞれの公開主体(教育委員会等)にお問い合わせください。

日本語指導係

文部科学省では、教員を中心とする教育関係者が帰国・外国人児童生徒に対して、効果的に適応指導、日本語指導を行える環境づくりを支援するため、情報検索サイト「かすたねっと」を公開しています。帰国・外国人児童生徒の受入れ実績が豊富な学校や教育委員会等が作成した「多言語の学校文書」や「外国人児童生徒教育のための教材」を地域の実践事例として検索することができます。

このサイトは、関西大学総合情報学部(情報検索システムの開発・管理)、豊橋技術科学大学情報メディア基盤センター(サーバーの提供・運用)、各都

道府県・市町村教育委員会（著作物の公開・登録）等の協力を得て運営されています。

近年、海外に在住する義務教育段階の子どもが現地校等へ就学するケースが増えたり、長期滞在化が進んだりすることにより、日本語指導が求められるケースが出てきております。在外教育施設におかれては、教科指導に加えて、日本の文化や伝統についても指導していただいているところですが、日本語指導の一助として本サイトもご利用いただければ幸いです。

情報検索サイト「かすたねっと」

アドレス <http://www.casta-net.jp/>

※このサイトの愛称「かすたねっと」(CASTA-NET)は、外国につながるのある児童・生徒のためにインターネット

を介して提供される多言語情報資源及びソフトウェア・ツールを意味する英語表記 (Multilingual resources for school children with foreign backgrounds and software tools available on the Internet) の略称から命名されました。

(問い合わせ先：国際教育課日本語指導係)

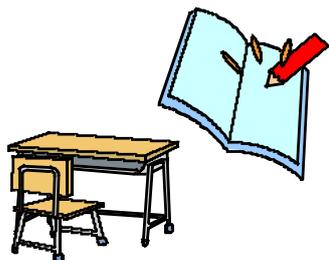


補習授業校中学部のための指導資料作成に関して

在外教育施設指導係

平成23年7月12日(火)文部科学省7階会議室にて「補習授業校中学部のための指導資料作成についての検討会」が開かれました。座長に選任された東京学芸大学副学長の佐藤郡衛先生をはじめ、検討委員、視学官、教科調査官の先生方から補習授業校中学部のための指導資料集の方向性や中学部国語・数学の魅力ある授業づくりについて議論していただきました。

今後は、第2回(9月下旬予定)、第3回(11月下旬予定)を経て、補習授業校の先生方が使いやすく、分かりやすい指導資料集を作成していきたいと思っております。





**平成23年度校長研究協議会及び補習授業校派遣教員研究協議会
の日程について**

教職員派遣係

地 区 名	期 間	幹事校（開催地）
東アジア・大洋州	11月 9日（水）～ 11月11日（金）	シンガポール日本人学校 チャンギ校 （シンガポール共和国）
中南米 ※政府共催	10月18日（火）～ 10月20日（木）	ボゴタ日本人学校 （コロンビア共和国）
南西アジア・中東・アフリカ	11月 1日（火）～ 11月 3日（木）	ドーハ日本人学校 （カタール国）
北米・欧州	10月24日（月）～ 10月26日（水）	アムステルダム日本人学校 （オランダ王国）
補習授業校	10月24日（月）～ 10月25日（火）	ロサンゼルス補習授業校 （アメリカ合衆国）

人事異動のお知らせ

庶務・助成係

以下のとおり人事異動がありましたのでお知らせします。

【6月30日付け】

（退職）

小澤 こそえ 教職員給与係
→退職

【7月19日付け】

（転出）

野口 宏志 外国語教育推進室企画調整係長
→農林水産省消費・安全局表示・規格課総務班法令係長

（転入）

弓岡 美菜 幼児教育課企画係
→外国語教育推進室企画調整係

【7月21日付け】

(転出)

松本 吉正 課長補佐

→財団法人自治体国際化協会業務部長

(転入)

平井 敏彦 財務課高校修学支援室室長補佐

→外国語教育推進室室長補佐(併)課長補佐

【7月28日付け】

(転出)

齋藤 幸義 企画調査係長

→研究振興局振興企画課総括係長

【8月1日付け】

(採用)

細川 摩衣子 新規採用

→教職員給与係

【8月8日付け】

(転入)

渡辺 洋平 初等中等教育企画課専門職

→企画調査係長

国際教育課「気球船」編集部より
本誌へのご意見、ご感想をお待ちして
います。

下記までご連絡ください。

連絡先E-mail: kokukyo@mext.go.jp

こちらも随時募集中です。

○投稿記事

(原稿料は出ません。ご了承ください。)

MESSAGE



* 編集後記 *

残暑お見舞い申し上げます。

紫外線が気になり始めた今日この頃…。

ということで、今年は日傘デビューをしました!

まだ暑い日が続きます。皆さま、お体ご自愛くだ
さい。(H)

